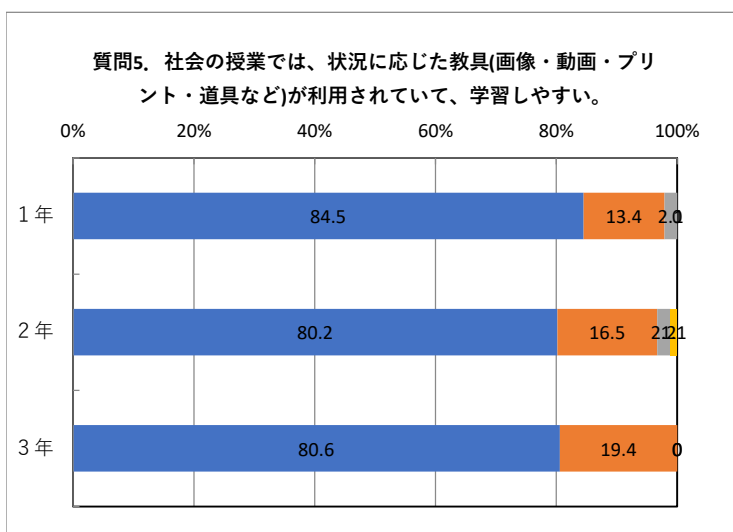
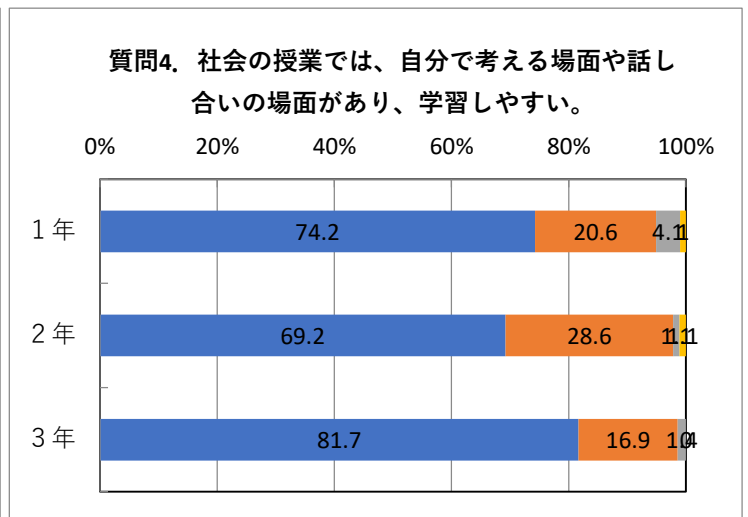
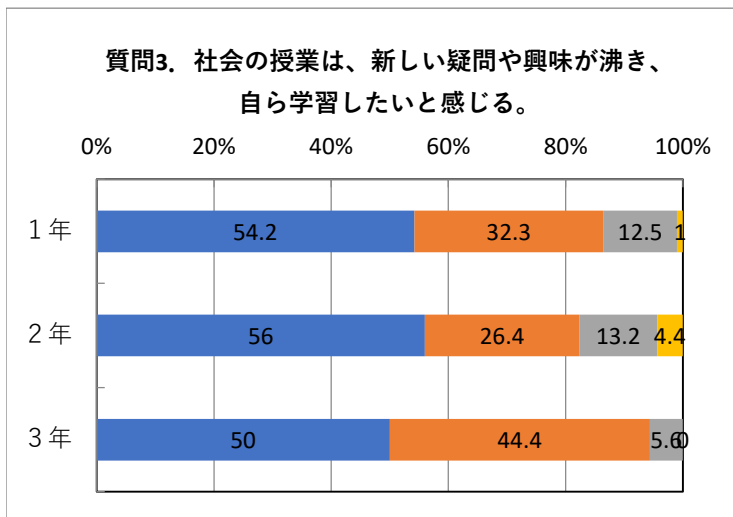
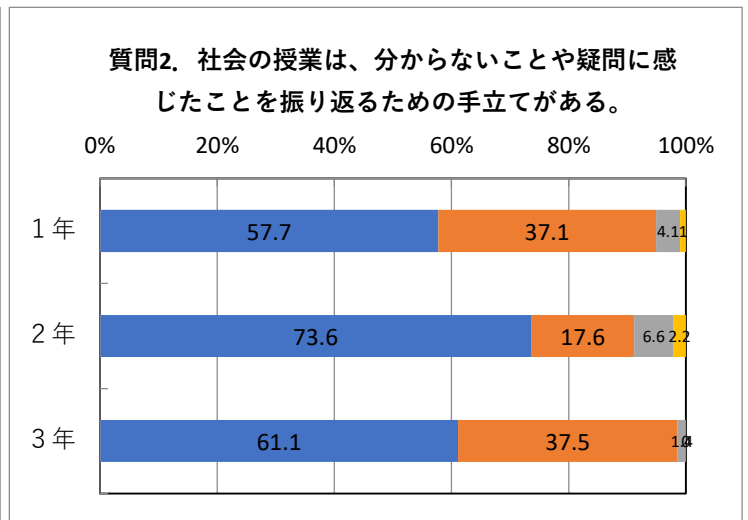
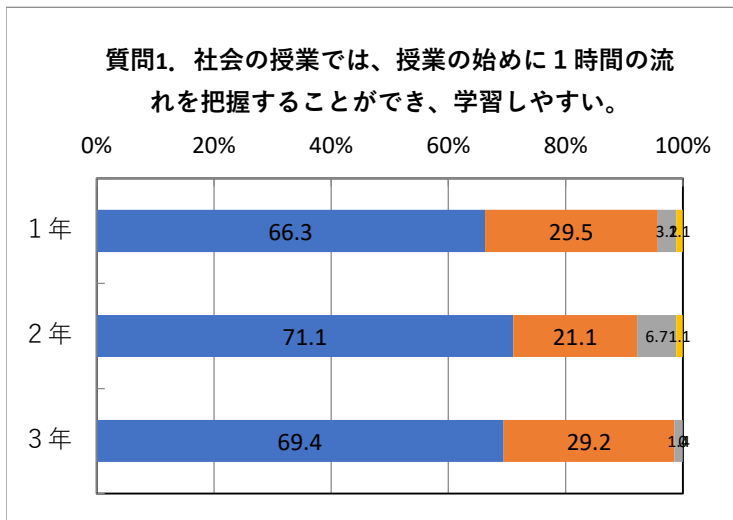


令和3年度 学校評価 授業編【社会】 アンケート集計結果 調布市立第八中学校



【7月】



【分析】
 全体的に肯定的である。「質問1」、「質問4」、「質問5」の結果から、ICT機器と単元シートの活用が有効だったと考えられる。単元を貫く問いを設定し、学習の見通しをもたせることで、様々な社会的事象について多面的に考察することができた。また単元ごとのまとめの時間を確保し、ICTを活用した対話的活動の導入も肯定的な意見につながったと考える。一方で「質問2」、「質問3」の結果から、「個別最適化学び」の実践が課題と考えられるので、生徒一人一人の特性や学習状況を意識した課題改善をおこなっていく。

【課題】
 [1年] 「質問3」の結果から、否定的な意見が13.5%と高い。導入時の指導や発問を通して、生徒自身が社会的事象に対する問いや疑問を見出せるような工夫を講じる。また、学習課題を解決していく課題解決学習を積極的に取り入れ、社会科への興味・意欲を高める。
 [2年] 「質問3」の結果から、否定的な意見が18%と高く、学習に対する主体性を高めることが課題と考えられる。導入時の指導の工夫や探究学習を通して、社会科の興味・関心を高め、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会の提供等を意識した授業改善を行う。
 [3年] 「質問1」「質問4」から、1時間の見通しが持てるとともに、対話的な活動を取り入れた授業を継続して行う。「質問3」の結果から、導入時の発問や課題提示の工夫を講じる。